

防災・減災

U N N A N C I T Y

マニュアル

大地震や豪雨などの自然災害は、人間の力では食い止めることはできませんが、災害による被害は住民の皆さんの日頃からの準備や努力によって減らすことが可能です。

災害が起きてからでは間に合いません。日頃から「自分でできること」、「家族でできること」、「地域でできること」などについて考え、いつくるかわからない災害に備えておくことが大切です。



雲南市



台風や大雨が降ったら

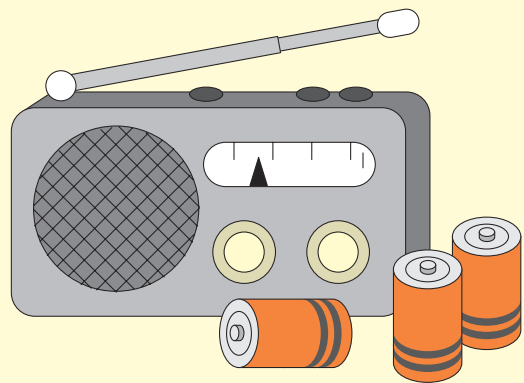
台風が接近したり大雨が降ったりしたときはどうしたらいいのでしょうか？

近年では、全国的に局地的な集中豪雨がたびたび観測されています。

いざというときに備えて日頃から正しい知識を習得するとともに準備を行いましょう。

ラジオ、電池の備えを

停電でテレビなどの情報が得られない場合もあります。そんなときに備えて携帯型のラジオと電池の準備をしておきましょう。



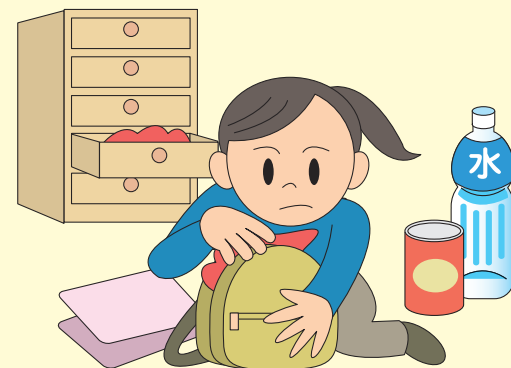
最新の情報を

テレビ、ラジオなどで最新の気象情報入手し、早目の準備が行えるようにしましょう。また、市が行う無線放送、告知放送などを聞き逃さないように注意しましょう。



早目の準備を

まだ大丈夫などと情報を軽く考えないで、早めはやめの準備と対応を行うようにしましょう。



すみやかな行動を

特に、傾斜地やがけ、河川の付近では注意が必要です。避難勧告が出たらすみやかに行動をしましょう。



■洪水時の避難の心得

- ①避難の前に、電気・ガスなどの元栓を消し、避難場所を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しましょう。玄関などに避難したことを張り紙することも効果的です。
- ②危険が迫ったときは、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合は、すみやかに避難しましょう。

CHECK 洪水のときの避難は…



■水位の確認

歩ける深さはまた下までです。水深が腰まであるようなら無理は禁物です。家の2階以上に上がるなど高い所で救助を待つのが安全です。

■足元に注意

裸足、長靴での避難は禁物です。ひもで締められる運動靴を履き、長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら避難しましょう。

■ロープを使う

はぐれないようお互いの体をロープで結んで避難しましょう。

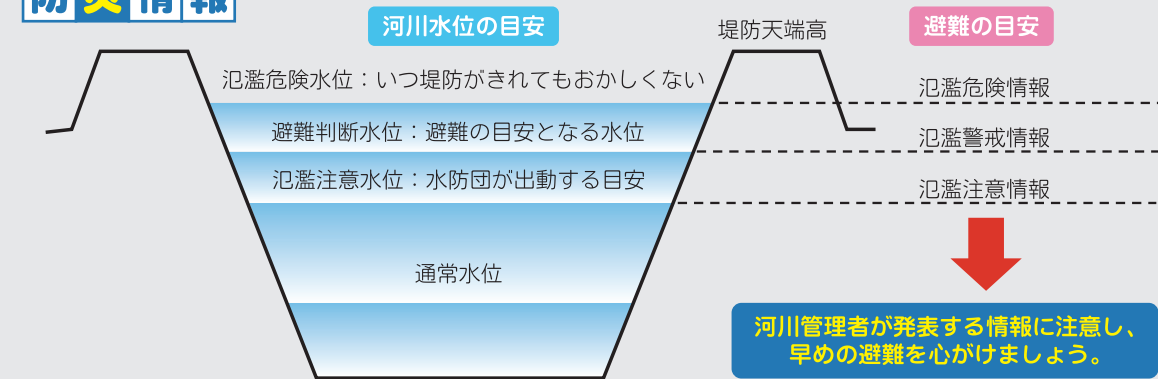
■2人以上で避難

避難するときは動きやすい格好で、2人以上で避難するよう心がけましょう。

■高齢者や子どもを安全に

高齢者や身体の不自由な人は背負うようにし、幼児は浮き袋やベビーバスなどを利用して安全の確保を行いましょう。

河川に関する 防災情報



水位雨量リアルタイムデータ表示 <http://www.pref.shimane.jp/section/uryousui/menu.html>



雨が降ったら土砂災害に注意

台風や集中豪雨などにより地盤がゆるんだり、亀裂が入って土砂災害が発生する危険性があります。大雨が降ったときはがけ崩れ、地すべり、土石流などにも注意が必要です。

土砂災害の種類

【がけ崩れ】【土石流】【地すべり】
があります。

がけ崩れ 突然、岩や土砂がガラガラと落ちてくる！

がけの地面に水がしみ込み、弱くなった斜面が瞬時に崩れ落ちる。がけの近くに住んでいる人は斜面の状況に十分注意し危険を感じたらすぐに避難しましょう。



土石流 あつと言う間に、大きな石や土砂が流れ出る！

谷や斜面にたまった土や石・砂などが、大雨や長雨による水といっしょに一気に流れ出す。速度が速く、破壊力もあるため、大きな被害をもたらします。谷の出口付近に住んでいる人は特に注意しましょう。



地すべり 地面がひび割れ、家や道がズルズル動き出す！

比較的緩やかな斜面で土のすべりやすい面が地下水の影響などでゆっくりと動き出す。一度に広い範囲が動くため、被害も大きく、川をせき止めて洪水などを引き起こすこともあります。



CHECK こんな前ぶれに注意...

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。

- 山鳴りがする
- 川の流が濁り流木が混ざりはじめる
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 斜面から水がふき出す
- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水が濁る
- 小石がバラバラ落ちてくる



避難場所は



土砂災害から身を守る

- ★1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降雨量になったら注意しましょう。
- ★土石流が発生したら、土石流の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。
- ★避難場所で落ち合うことができるよう、家族や地域で避難場所の確認や道順を決めておきましょう。

土砂災害に関する 防災情報

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まり、嚴重な警戒が必要な場合に発表されます。

気象台からこの情報が雲南市に発表された場合は、**土砂災害に注意**してください。

土砂災害危険度情報

土砂災害危険度情報は、何時間後に土砂災害発生の危険性が高まるか、5キロメッシュ地図でお知らせします。

土砂災害危険度情報は**パソコン**や**携帯電話**で見ることができます。

ホームページ http://www.pref.shimane.jp/section/sabo_uryo/keikai/
携帯サイト http://www.pref.shimane.jp/section/sabo_uryo/keikai/i/



地震がきてもあわてずに

地震が起きたらどうしたらいいでしょう？

地震はいつ起こるかわかりません。いつどこで発生しても冷静に行動できるようにしましょう。

Start

まずは身の安全を



地震が起きたら、家具の転倒や落下物などから身を守るために、揺れがおさまるまでテーブルの下などに隠れるようにしましょう。

冷静に火の始末



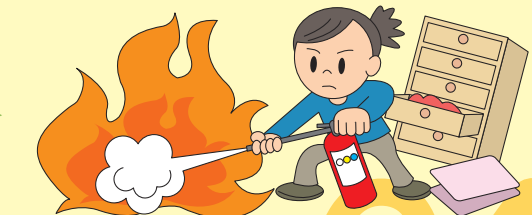
ガスコンロや、ストーブなど火を使っている場合は火災を避けるため、確実に火を消します。耐震装置などがついていても、安心せずに確認しましょう。

脱出口を確認、確保する



地震によってドアや窓が開かなくなることがあります。地震を感じたらドアや窓を開けておきましょう。

火が出たら初期のうちに消火



万が一火災が起きたら、近所にも火事とわかるよう大きな声で叫び、初期のうちに消火しましょう。天井に火が燃え移っていなければ初期消火が可能です。

外に逃げるときはあわてずに



家から出る場合は、落下物やガラスなどの破片に注意しましょう。

せまい路地や塀ぎわ、 がけや川べりには近寄らない



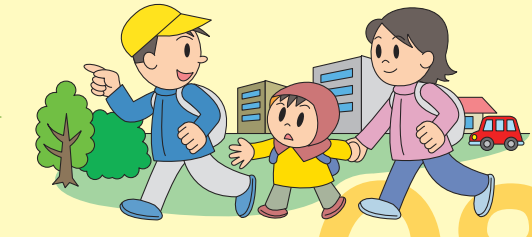
ブロック塀は思っている以上に倒れやすいものです。道路を歩くときは車などに注意しながら自分の身を守りながら歩きましょう。

がけ崩れ、山崩れ、津波に注意する



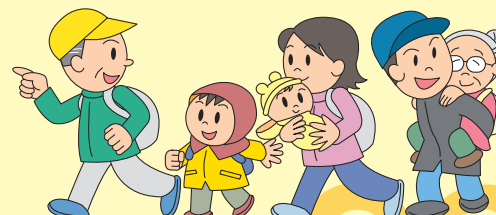
家のすぐそばにがけなどがある場合や海辺にいる場合はすぐに避難しましょう。

荷物は最小限にし、避難は徒歩で



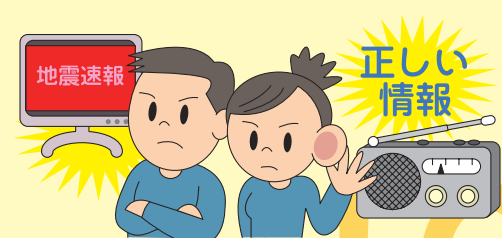
荷物は必要最小限にして、車を使わずに歩いて避難しましょう。キャンプ用品など持っている場合は取り出しやすいところにおくと便利です。

みんなで協力



不安なのはみんな一緒です。乳幼児や病人、高齢者、障害者の人たちの安全を優先にみんなで助け合いましょう。

正しい情報を知ろう



うわさなどに惑わされず、テレビやラジオから正しい情報を入手するようにしましょう。

Finish

緊急地震速報



緊急地震速報
来る前に知る

「緊急地震速報」は地震の発生及びその規模を素早く知り、地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に、強い揺れが来ることをお知らせすることを目指す新しい情報です。緊急地震速報は、テレビやラジオなどから情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。その短い間に身を守るための行動を取る必要があります。緊急地震速報を見聞きしたときの行動は「周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する」ことが基本です。*ただし、震源に近い地域では、「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



地震対策は万全ですか

いざ地震となると、家の中には危険がいっぱいあります。
もしもの時のことを考えて、自分の家のまわりを見直してみましょう。

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる



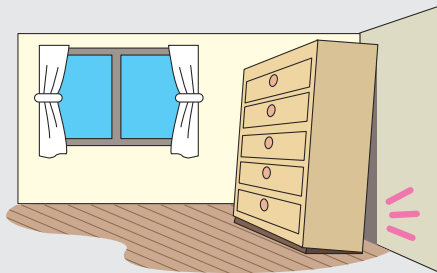
部屋がいくつもある場合は、あまり使わない部屋に家具をまとめて置くようにします。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように配置換えを検討しましょう。

寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない



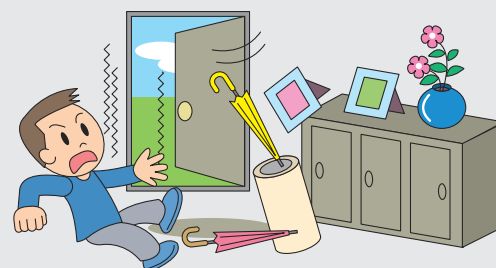
就寝中に地震が起こるととても危険です。

家具は倒れにくいように



家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすくなります。家具の下に小さな板などを差し込んで壁や柱に寄りかかるように固定しましょう。畳の上に置く場合には、家具の下に板を敷き倒れにくくしましょう。

出入口や通路には物を置かない

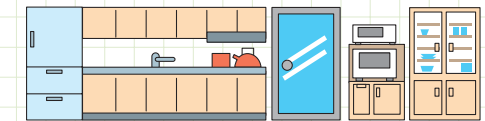


玄関など出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かないようにしましょう。また、玄関に物を置くと、いざというときに出入口をふさいでしまうことがあります。

わが家の安心度チェック

自分の家が地震に耐えられるのかを知るための簡単な耐震チェックです。地震に備えてわが家の耐震について考えてみましょう。

1 家の中編



タンス・本棚

L字金具や支え棒などで壁や天井に固定しましょう。2段重ねの場合は、つなぎ目を金具でしっかり固定しましょう。

食器棚

L字金具などで壁にしっかり固定し、棚板は滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷いておきます。また、重い食器は下に、軽い食器は上のほうに置くようにし、扉が開かないように止め金具などをつけましょう。

冷蔵庫

冷蔵庫の底には移動しやすいように2～4箇所キャスターがついています。このため地震が起きると部屋の中を大移動しますので、移動しないように壁に固定しましょう。

その他

軽くて動かす必要がないようなインテリアなどは、ゴム製の両面テープでしっかりと固定しておくことで転倒しません。

窓ガラス

地震により窓ガラスが割れて飛び散りケガをする恐れがあります。飛散防止フィルムを貼るなどしておくことで安心です。

2 家の周り編



ブロック塀

地震によりブロック塀が倒壊する危険性があります。土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強しましょう。ひび割れや鉄筋のサビも要注意です。

ベランダ

ベランダに物を置いていると落下する可能性があり危険です。植木鉢などが置いてある場合は整理整頓しておきましょう。また、落下の危険性がある場所には何も置かないことが大切です。

屋根

屋根にアンテナなどがある場合は補強しておきましょう。また、屋根材を軽い素材にしておくことで、地震のとき住宅への負荷を軽減することができます。

プロパンガス

プロパンガスのボンベは転倒しないようにしっかりと鎖で固定しておきましょう。



日頃から災害に備えましょう!

大災害時には、電気や水道、ガスなどのライフラインがストップし、スーパーや商店なども営業できなくなります。そのために普段から家族で話し合い、水や食料、燃料などを最低でも3日分は用意しておきましょう。家庭によっては、赤ちゃんや高齢者、病人のために必要なものをそろえておきましょう

非常持ち出し品

食料品等

乾板・ビスケット
チョコレート・缶詰め
水 など



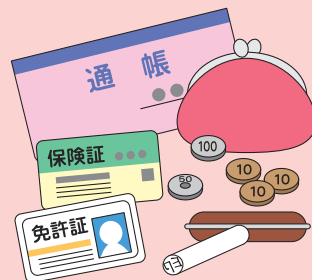
衣類等

下着・トレーナー
ジャンパー・タオル
雨ガッパ・手袋(軍手)



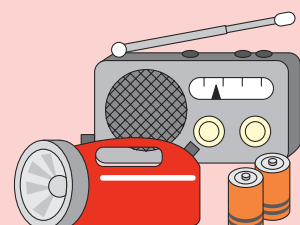
貴重品

現金(小銭)・預金通帳
印鑑・保険証
免許証 など



日用品

ガムテープ・ローソク
マッチ・ライター
懐中電灯・携帯ラジオ
電池・生理用品・缶きり
ナイフ・ロープ



安全対策

ヘルメット・救急セット
常備薬・底の厚い靴



赤ちゃんが いる場合

母子健康手帳
粉ミルク・ほ乳ビン
紙おむつ など



備蓄品

準備してあると
便利なもの

- 燃料** 卓上コンロ、予備のガス、固形燃料 など
- 食料品** レトルト食品、カップ麺、菓子類など賞味期限の長いものをストックしておくとう便利
- 水** 飲料水は1人あたり約3リットルが目安です。(3日分程度備蓄しましょう)
- 消火器**
- その他** 歯磨きセット、ウエットティッシュ、マスク、ビニール袋、食品用ラップ、携帯用のカイロ など

災害用伝言 ダイヤル

災害が起きると、被災地に住む人たちの安否を気づかう電話が集中するため、電話回線がマヒ状態になります。そのため、家族間でも連絡が取れなくなることがあります。そんなときは「災害用伝言ダイヤル」を利用しましょう。

利用方法

「171」にダイヤルすると、ガイダンスが流れます。
伝言録音は…「171」⇒「1」⇒「市外局番からの電話番号」
伝言再生は…「171」⇒「2」⇒「市外局番からの電話番号」

※すべて音声で案内されますので、使用方法を覚える必要はありません。

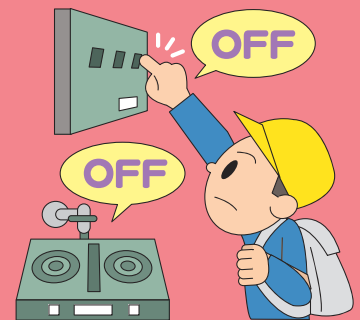


避難するときは、あわてず徒歩で

避難するときは混乱を防止するために、決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。特に、乳幼児や高齢者、病人、身体の不自由な人などを安全に避難させるために、地域で助け合うことが大切です。また、災害時に車で避難すると、避難場所やその周辺が混雑したり救護活動に支障が出ることもありますので、車での避難はやめましょう。

■避難の心得

- 避難する前に、もう一度火元を確かめ、ブレーカーも切る。
- 家には避難先や安否情報を書いたメモを残す。
- ヘルメットや防災ずきんで頭を保護し、安全な服を着用する。
- 避難は徒歩でする。
- 高齢者や子どもに声をかけ、手をしっかり握る。
- 避難場所へ移動するとき、狭い道や壁ぎわ、川べりは避ける。
- 近所の人たちに声をかけ、集団で避難施設へ。



地域ぐるみで防災・減災に取り組みましょう

市や県が行う「公助」はいうまでもありませんが、自分のみは自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。

災害時の救助や避難などには地域の皆さんの助け合いが欠かせません。自分の住んでいる地域の危険な所を知っておいたり、近所づきあいや高齢者や子どもなどへの声かけなど、普段からの心配りがいざというときに力を発揮します。

また、自治会などで「自主防災組織」を編成し、日頃から取り組むことも大切です。

